

相談員日記

双葉町 健康福祉課

専門保健師 安部 恭子 様

2013年4月に福島県の任期付職員に採用され双葉町役場郡山支所に配属されました。当時、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故の発生から2年が経過していましたが、それらの影響や課題がこの先数年で収束するのは難しいと感じ、福島県双葉町の保健師として働くことと決意し採用試験を受け採用されました。

2014年4月からは正真正銘、双葉町の保健師として、県内のすべての方部や埼玉県加須市の方をはじめ、全国におられる住民の方に向けた健康支援を行ってきました。

また、社協が開催するサロンに健康相談のために参加したり、双葉町が主催して放射線に関する講話等を交えた車座意見交換会を開催したりしています。サロンや車座意見交換会等は、住民同士の交流の場になっているだけでなく、直接皆さんの声を聞くことができる貴重な機会となっています。現在は、認知症や精神疾患等、対応の困難な支援、緊急性が高い方の個別支援、長期間関わる必要のある支援などが増えています。

住民の方と話をする際は、人それぞれ置かれている環境や年齢、健康状態などが異なることを踏まえての対応を心がけています。同じ相談内容でも、相談者の事情によって対応を柔軟に変えていく必要があります。できないことをただ補うのではなく、できるようになるにはどうすれば良いか、また、本人の意思を尊重した上で、どのような方法を取るのが良いかを一緒に考えていくことが大切だと考えています。

震災から10年が経ち、放射線に関する相談は減りました。来年、双葉町が役場機能を町内に戻すことで、徐々に住民の方の帰還も進んでいくと思われれます。しかし、喜んでいらっしゃる方が多い反面、「高齢になってしまった」、「自宅が町外にある」など、帰りたくても帰れない事情があり、素直に喜べない方がいるのも実情です。また、「やはり、放射線のことを心配」という方もいるかもしれません。皆の前では本音を言えない方もいるため、話をしながら、物事をできるだけプラスに受け止められるような考え方を一緒に探していけるよう努めていきたいと思ひます。

何度も顔を合わせているうちに、次第に心を開き、話をしてくれるようになった住民の方が多数います。こうしたことは、自分にとって財産であり、思い切って双葉町の保健師になって良かったと思える瞬間です。住民の皆さんには、困っている時に一人で抱え込まず、いつでも相談していただければと思ひます。これからも住民の方との関わりを通して本当の気持ちを引き出していけるように努め、相手の心に寄り添った対応をしていきたいと思ひます。

